

## 適応指導教室「すなはま」の活動

中国電力出前講座と傘踊り

R元. 9. 24 (火)

### <中国電力出前講座>

前半は、「電気はどうやってできるのか」「各家庭にはどうやって届くのか」を中国電力の方に説明していただきました。また、水力発電の仕組みを模型で実際に見ることで、ダムでの発電の様子を想像することができました。



後半は、「ぶるぶるモンスター」を作りました。光電池で作った電気を振動エネルギーに変えることで、ぶるぶる君の足が動きます。この日は曇っていたので、光源を投光器に代えて試しました。ジジーッと動くぶるぶる君の面白い動きに子どもたちは大喜びでした。翌日、太陽光で動かしてみると、太陽光の威力は予想以上でパワフルに動き回りました。

子どもたちは、電気が生活を豊かにしていること、その電気を作る石油や石炭、天然ガスを外国に頼っていることなどを学び、今の生活が外国やいろいろな人々の手で守られていることに気づくことができました。

### <傘踊りを体験>

鳥取の夏の風物詩「傘踊り」にチャレンジしました。子どもたちの中には、保育園や地域の活動で一度は踊ったことがある子どももいましたが、初めての子どももあり、シャンシャンと傘を回すことから始めました。踊ったことがある子どもたちが先頭になって、「きなんせ節」を練習しました。足の動きや傘の振り方を教え合って、最後は円になって音楽に合わせて踊ることができました。子どもたちは、「振付が複雑で大変だったけれど、上手く曲に合わせて踊れると、達成感と嬉しさで楽しかった」と、振り返っていました。体育館にシャンシャンと鈴の音が響き、みんなで夏祭りの雰囲気を楽しみました。



## 適応指導教室「すなはま」の活動

### グラウンド・ゴルフを体験

R元. 9. 17 (火)

白兔グラウンド・ゴルフ場でグラウンド・ゴルフを体験しました。

始めに、ゴルフ場長の徳安さんにクラブの持ち方やボールの打ち方を教えてもらいました。「まずは打ってボールの転がり方を確かめてみよう。」と、15mと20m先のホールポストにボールを止める練習をしました。クラブがボールに当たる向きや強さでボールが遠くまでとんだり、思わぬ方向にとんでいたりして、子どもたちは一喜一憂しながら練習しました。

その後、午前に1ゲーム、午後から1ゲームしました。海からのさわやかな風の中、緑の芝生のコースを2チームに分かれて回りました。子どもたちはどんどん上手になり、2打でホールポストに止めるなど、スコアをのばしていきました。

秋の気配を感じるゴルフ場で、小学生も中学生も思いっきりクラブを振り、ゲームを楽しむことができました。



## 適応指導教室「すなはま」の活動

### 梨狩りと野外炊飯

R元. 9. 10 (火)

#### <梨狩り>

ハシモトフルーツ園に梨狩りに行きました。たくさん実った梨の中から、自分たちが6月に袋かけをした梨を探して収穫しました。橋本さんは、「今年は、雨が降らなかったのも水やりが大変でした。甘い梨に仕上がっているの、たくさん食べてください。」と話され、梨の採り方



を教えてもらいました。採りたてをその場で食べたところ、冷たくて甘い果汁が口いっぱいになり、おいしかったです。

鳥取名産「二十世紀梨」と言われますが、梨狩りは初めての子どもたちが多く、新鮮な梨に舌鼓を打っていました。

#### <野外炊飯>

梨狩り後、柳茶屋キャンプ場で、カレー作りをしました。薪をなたで割って火を起こしたり、野菜を切ったり、協力して煮炊きしました。なかなかかまどの火が付かなくて煙に涙を流しながら、火おこしをしました。パチパチと火がおこると、「おうっ。」と歓声が上がっていました。飯ごうで炊いたご飯も、すなはま農園で収穫したジャガイモを使ったカレーもおいしくできました。



食後、キャンプ場の松林で「だるまさんがころんだ」をして遊びました。

一日のいろいろな体験を通して、小学生と中学生が互いに関わり合い、親交を深めることができました。

## 適応指導教室「すなはま」の活動

こども科学館見学とものづくり

R元. 9. 3 (火)

### <こども科学館の見学>

こども科学館では、館内の展示を調べたクイズラリーや学芸員さんによるたくさんの科学実験を体験しました。

水を一杯に注いだワイングラスにふたをしてグラスを持ち上げたり、美しいオーロラを電子レンジでつくったり、音の伝わり方を目で確かめたりするなど、自然界にある様々な不思議なことを実験で確かめることができました。子どもたちは、「おおっ。」と声を上げて驚いたり、自分たちも実験に参加したりして、科学の神秘さを楽しみました。



### <FabLab (ファブラボ) とっとりでものづくり>

午後からは、レーザー木工加工機でオリジナルのキーホルダーを作ったり、3D プリンターや刺繍ミシンでのものづくりの様子を見学したりしました。

子どもたちは、科学実験やものづくりの最新の機器を見学して、科学技術の進歩に感動していました。もう一度作ってみたいので、是非家の人と来たいと話していました。



## 適応指導教室「すなはま」の活動

鳥取消防署と江山浄水場の見学

R元. 7. 16 (火)

### <鳥取消防署の見学>

鳥取消防署では、消防署の人たちがどんな仕事をしておられるのか説明してもらったり、消防車によっていろいろな機械や器具が装備されているのを見学したりしました。また、3名の生徒が東部で一番高いところまでのぼすことができるはしご車のバケットに乗せてもらい、その高さを体験しました。夏の日差しで暑い日でしたが、消防署の方が屋外で綱を渡ったりよじ登ったりして救助訓練しておられる様子も見ることができ、子どもたちはその身軽さと力強い動きに感動していました。これらの訓練が、暮らしの安心と安全を支えていることを学びました。



### <江山浄水場の見学>

安心・安全な水を作るために、江山浄水場では千代川から給水した原水を膜ろ過法で浄水しているそうです。ストロー状の中空糸膜を数千本セットした膜モジュールという円筒状の容器に圧力をかけて原水を流し込んで汚れを取り除き、ろ過した水を塩素消毒して水道水としているのだそうです。

この水道水が各所の配水池に送られ、家庭の蛇口へとつながっていると知りました。すなはま教室には江山浄水場から上町配水池へと送られた水がきていることが分かりました。

浄水場の施設では、市内の水道施設の状態をコンピューターで監視できる設備もあり、まるで水を作る工場のようなようでした。作りたての水道水を飲ませてもらうと、味もにおいもなく、いつも飲んでいる鳥取のおいしい水でした。こんな近代的な施設で私たちの水道水ができていると知り、いままで以上に安心な気持ちになりました。



## 適応指導教室「すなはま」の活動

殿ダムと因幡万葉歴史館の見学

R元. 7. 9 (火)

### <殿ダムの見学>

殿ダムの仕組みや役割について学びました。

殿ダムはロックフィルダムという型式で、自然にある土や岩石をピラミッドのように積み上げて造ったダムだそうです。見学すると、ダム湖側は大きな丸い石が、下流側には砕かれた白い石が積まれていました。



ダムの内部には、ダム湖側からしみ出してくる水の圧力を測ったり、水を排水したりする仕組みが備わっていました。子どもたちは、トンネル内を120mも下って見学しました。トンネル内は一年を通じて気温12.5度ということで、半袖では少し寒いくらいでした。子どもたちは、このダムが鳥取市内の洪水を防いでいることを知って、ダムの役割を身近に感じていました。

### <因幡万葉歴史館の見学>

万葉歴史館では出脇さんに解説していただきました。子どもたちは、万葉集を編纂（へんさん）した大伴家持が因幡の国守として赴任して鳥取にゆかりがあること、万葉集に収められている最後の歌は大伴家持が因幡の国で詠んだものだということを知りました。

子どもたちは、梶山古墳や岡益の石堂なども見学して、今から千五百年前に鳥取の地で文化を育てていた人々の様子を知ることができました。



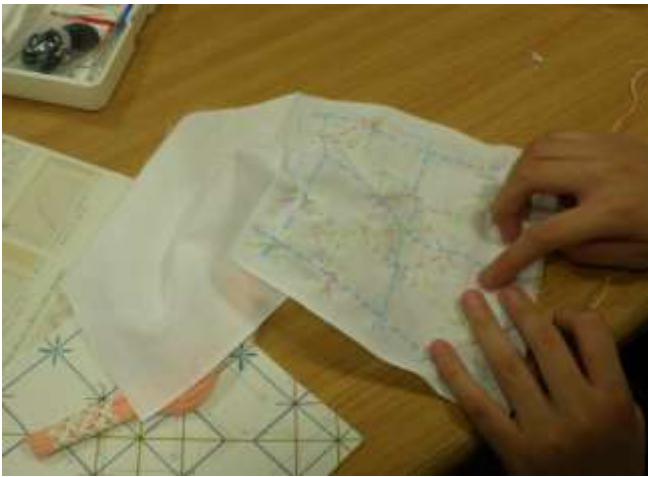
## 適応指導教室「すなはま」の活動

### 刺し子・小物づくり体験

R元. 7. 2 (火)

刺し子にチャレンジしました。

最初に、「刺し子」の本の中から図案を選び、晒の布に図案を写しました。次に、縫い糸の色を決めて、手順にそって縫い取りをしていきました。子どもたちは、普段手縫いをしたことがあまりないので、刺繍針に刺し子用の少し太めの糸や刺繍糸を通すことや縫い目の大きさをそろえることが難しかったようです。

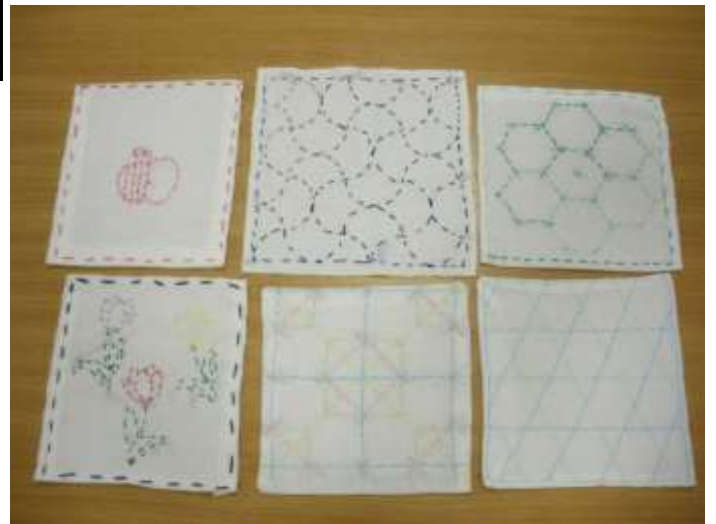


花瓶敷やお茶セットのかけ布として、暮らしを豊かにするために普段使っていければと思います。



午前2時間、午後1時間の合計3時間かけて縫い上げ、16センチ四方の布に図案が浮かび上がってくると、互いに見せ合っ  
て出来上がりを喜んでいました。

最後に、アイロンを当てると、布目がびんと伸びて、素敵な刺し子の作品になりました。



## 適応指導教室「すなはま」の活動

調理実習（カレーライス・サラダ・みそ汁・ミルクゼリー）と缶バッジ作り  
R元. 6. 25（火）

### <調理実習>

農園で育てたタマネギとジャガイモを使って、カレーライスを作りました。参加児童生徒は7名でしたが、2班に分けて、グループごとに調理しました。マカロニサラダとみそ汁、牛乳ゼリーも併せて作り、豪華な昼食となりました。「手順を覚えて、家庭でも作りたい。」と感想に書いていた子どももいました。



生活の中で、できることが増えることは嬉しいことです。

農園でとれたジャガイモは、「キタアカリ」という品種ですが、甘くておいしかったです。

### <缶バッジ作り>

一人一人が自分で絵を描き、オリジナルの缶バッジを作りました。大好きなものをイメージして描いたり、誰にプレゼントしようかと考えて描いたり、出来上がるまでも楽しみながら作ることができました。写真を撮った後は、嬉しそうに持ち帰りました。





## 適応指導教室「すなはま」の活動

### 砂の美術館・砂丘ビジターセンターの見学と梨の袋かけ体験

R元. 6. 18 (火)

#### <砂の美術館見学>

南アジア編の砂像を見学しました。展示室の入り口で、インド独立の父マハトマ・ガンディーの巨大な砂像が出迎えてくれました。子どもたちは砂像の大きさと各所の細やかな彫りこみ模様に驚いていました。シャカが亡くなったことを悲しむ弟子たちの様子やバーミヤンの大仏が破壊された様子の砂像を見て、南アジアの文化や歴史も知ることができました。

彫刻家の茶園さんが彫っている様子を見学できるイベントもあり、子どもたちは興味深く見学していました。



#### <砂丘ビジターセンター見学>

世界にここにしかない実験装置を使って、風紋のでき方を学びました。風紋は、砂が乾いていること、風速5～6mの風があること、砂粒に大小があることの3つのポイントが大切だそうです。装置の中で、風によって砂の粒が動いて風紋ができる様子を見て、子どもたちは自然の不思議さと美しさに感嘆していました。

ビジターセンター内の「すなくら」で砂丘の四季の映像を見たり、砂を顕微鏡で観察したりして、砂丘の起源や砂丘の自然について詳しく学ぶことができました。

#### <梨の袋かけ体験>

ハシモトフルーツ園で、梨の栽培についての説明を聞いた後、袋かけをしました。梨の袋は、梨の実を害虫や病気から守るためと梨の表面が美しくあるために掛けるそうです。子どもたちは、1回目の小さな袋の上から2回目の大きな袋をかけていきました。梨の木は作業しやすいように低く仕立ててあり、一つ一つ葉が袋に入らないように、また隙間から虫が侵入したりしないように丁寧に袋をかけました。

秋の収穫が楽しみです。



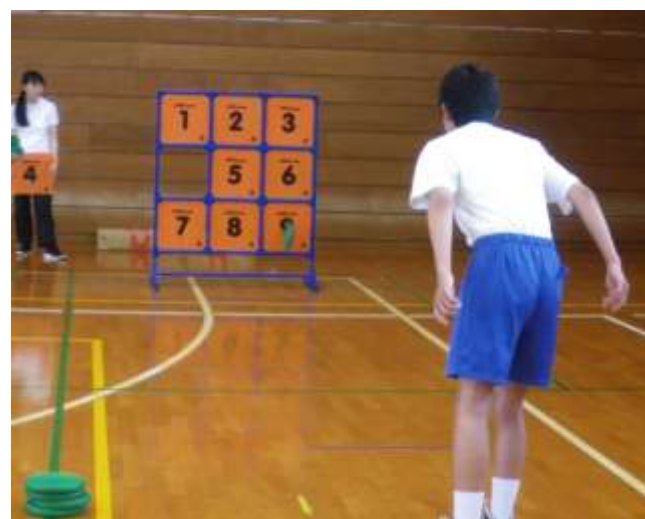
## 適応指導教室「すなはま」の活動

ニュースポーツ

R元. 6. 11 (火)

一日いろいろなスポーツを楽しみました。

ストライクボーリングは、木製の球を転がして10本のピンを倒します。球が当たってピンが倒れると大きな音がします。何回か投げるうちに、スペアやストライクが取れるようになり、子どもたちは歓声を上げて喜んでいました。



その他にディスクゲッター、ニチレクボールをしました。

ディスクを投げたり、ボールを転がしたり、個人やチームで得点を競って対戦し、一喜一憂しながらゲームを楽しみました。

子どもたちは応援したり、投げ方を教え合ったり、会話が弾み笑顔も多く見られました。

## 適応指導教室「すなはま」の活動

久松山登山

R元. 6. 4 (火)

### <久松山登山>

鳥取市教育センターの北側の窓からは、今は緑豊かな久松山が見えます。春は桜、秋は紅葉と美しい山です。今回はその山頂を目指して、登山しました。

始めに、昨年度完成した擬宝珠橋を渡り、三の丸の横、天球丸を見て、中坂の登山口に向かいました。



暑い日でしたが、登山道に入ると木陰もあって涼しかったです。子どもたちと何合目かを示す道しるべを励みに登りました。中坂の神社から40分ほどで山頂に着いた時は、汗で背中がぐっしょりでした。

山頂からは、鳥取平野が眼下に一望できました。霊石山や大路山、面影山、千代川などの山や川、NHK鳥取放送局や鳥取市教育センター、子どもたちが通っ

ている学校などの建物を確認しました。自分たちの生活している場所を上空から見下ろした経験はあまりないので、屋根の色や主だった建物を手掛かりにして見つけることができました。

登頂記念に山頂で手を振っているところを教育センターからカメラで撮ってもらいました。下からもよく目立つように赤い布を持っています。

いつも見上げている久松山に登り、鳥取のシンボルとして市民に親しまれている久松山が身近に感じられる場所になりました。



## 適応指導教室「すなはま」の活動

山陰海岸ジオパーク「海と大地の自然館」見学

R元. 5. 28 (火)

### 〈山陰海岸 千貫松島の見学〉

小雨の中、網代の遊歩道を歩いて千貫松島を見に行きました。花崗岩が浸食されてできた海食洞門のある島やそそり立つ海岸の様子は、砂丘とは違った山陰海岸の景色でした。

子どもたちは初めて見る浦富海岸の美しくごつごつした岩々が、冬の季節風や荒波で作られたことを学びました。



### 〈山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館見学〉

山陰海岸のすばらしさや歴史的な価値、周りで暮らす人々の文化等を詳しく学ぶことができました。地質や地形は学芸員の方に説明していただき、玄武洞の調査で磁場が反転していた時期があることや、大昔の日本は大陸と陸続きだったこと等を知りました。展示されている貝や岩石、鳴り砂、化石など、実際に手で触れることができるものが多くあり、ゆっくり見て回っ

ていました。

子どもたちは、手でデジタル地球儀を動かして、映し出される様々な情報を楽しんだり、海岸に流れ着いて保護されているウミガメやゴンズイ、サメなどの海の生き物を興味深く見たりして、豊かな海や自然に思いを巡らせていました。

## 適応指導教室「すなはま」の活動

### 太閤ヶ平ハイキング

R元. 5. 21 (火)

樗谿公園の大宮池で鯉に餌をやったり、各所に設置されている看板を読んだりしながら、太閤ヶ平を本陣山までゆっくりと登りました。

本陣山は標高251m、東照宮の鳥居から山頂までは3500mの距離があるそうです。前日に雨が降って心配していましたが、山頂まで舗装された道と新緑の木々の木陰、さわやかな風も渡り、約1時間20分で登頂しました。

子どもたちは疲れていましたが、登りきった達成感を感じ、山頂からの景色を楽しみました。



山頂からは久松山を見渡すことができました。1581年、織田信長の命令で、羽柴秀吉が総大将として、ここから鳥取城を攻めたそうです。本陣跡は広くて、土塁もしっかりと幅広く残っており、鳥取城攻めが実際にこの場であったのだと実感し、歴史に思いを馳せることができました。

すなはま教室ではここ2年、熊の出没報道等で登頂を断念していましたが、今回登頂することができました。

ここは鳥取自然休養林に指定されているそうですが、たくさんの方が登っておられました。行きかう人に「こんにちは」と挨拶しながら歩くことも、子どもたちにとってはとても良い体験になりました。

## 適応指導教室「すなはま」の活動

### 調理活動と真教寺公園散策

R元. 5. 14 (火)

#### 〈調理活動〉

すなはま教室で、キノコご飯とサヤエンドウの卵とし、モヤシの風味和え、みそ汁、デザートにプリンを作りました。

旬のサヤエンドウ、新玉ネギ、ミツバを使っての調理で、初夏ならではの献立になりました。子どもたちは、すなはま農園で収穫したサヤエンドウのすじとりをしたり、みずみずしい玉ネギをさくさくと切ったり、楽しく調理



しました。デザートの蒸しプリンは、カラメルソースを作ってかけると、ほろ苦くちょっぴり大人の味に仕上がりました。旬のものを取り入れ、彩りもよい料理をおいしくいただきました。



#### 〈真教寺公園散策〉

午後は、真教寺公園に行きました。雨上がりで少し涼しく、子どもたちは生き物について漢字のクイズの看板を一つ一つめぐり、覚えていました。

調理や見学の活動を通して、子どもたち同士の関わりが増え、笑顔が見られました。

## 適応指導教室「すなはま」の体験活動

久松公園散策と県立博物館見学 R元. 5. 8 (水)

鳥取の歴史や自然について、詳しく学びました。

### ＜吉川経家の像を見学＞

県立武道館横に設置されている吉川経家の像を見学しました。吉川経家戦国時代に羽柴秀吉の兵糧攻めで自し、城兵の助命を嘆願したそうです。34歳の若さでした。



川は刃



### ＜仁風閣の見学＞

仁風閣の館長さんに建設された経緯の説明を聞きました。池田仲博侯爵が別荘として建設を計画しましたが、皇太子の山陰行啓に合わせて明治40年5月に完成し、宿舎として利用されたそうです。子どもたちは、鳥取で一番早く電灯が灯ったことや電話が引かれたこと、行啓に合わせて鉄道も境港から鳥取まで開通したことなど、鳥取の文明開化となったことを聞いて驚いていました。また、建設されてから110年余りたっているようですが、鳥取大震災や鳥取大火にも巻き込まれず現存している螺旋階段やマンツルピースの彫刻、4m以上の高い天井など、その素晴らしさに感動していました。

### ＜県立博物館の見学＞

学芸員の方から鳥取の地形や自然、歴史についての説明を聞き、その後でそれぞれ野ごとにまとめられたクイズラリーを楽しみました。子どもたちは、「別名『ユウレイタ』と呼ばれる植物は何?』とか、「『ユウス花びらは何枚?』」などの問題に、展示物と合わせながら、協力して答えていました。自然や文化を知る良い機会になりました。



史、文  
れのみ  
みまし  
ケ』と  
ゲ』の  
照らし  
鳥取の